

## 第19回町民フローリング大会 実施要領

- (1) 競技者は1チーム5名で5個のホースリング（以下「リング」という）を使用し、ゲームを進める（1人1個のリング）。

登録は7名までとし、送球順は自由である（ゲーム中の選手の変更はよいが、選手は必ず1回リングを送球すること）。
- (2) コートは11.88m×3.05mのテープでフローリングに設置する（バドミントンコート半面を使用）。送球地は短辺の中央外線に立ち標的・リングを送球する。
- (3) 標的（卓球ボールの変形したものにビニールテープを巻いた物）は、コート内3.96m～11.88m以内に送球位置から投げる。

標的は、2回まで投げることができる。但し、2回とも失敗したときは、先攻権が移動し、相手に1点を与える。
- (4) 標的及びリングは、送球位置からどのような体勢で送球してもよいが、送球した標的及びリングが静止するまで送球地のラインを踏んではいけない。

もしラインを踏んでしまった場合は、1ゲーム中1人につき1回目は注意とするが、2回目以降は反則とし投げたリングを無効とする（投げたリングはコートの外へ置く）。反則となった場合は、コート内の標的及びリングをそのままの状態（反則となったリングが投げられた後の状態）でゲームを進める。

投げたリングは、移動されてもゲーム終了までそのままの状態で置く。  
リングは1人1投。
- (5) リングの形・重さ等による不公平を防ぐため、セットごとにリングを交換する。（1セット目に青を使用したチームは、2セット目は黄のリングを使用する。）

1セットずつリングの交換をしてゲームを進める。  
また、セット毎に送球地を換えることとする。
- (6) 最初に先攻・後攻を決め、1セット目は先攻チーム・2セット目後攻チームの順で標的、リングを送球する。（各セット内の送球順番は変更してもよい。）又、標的をリングで捕らえた場合（囲んだ場合）は標的から外し、投球者の好きな位置に着けて置く。
- (7) リングを投げて標的にあたり相手方のリングに標的が入った場合は、相手方投球者が標的を外し、好きな位置に着けて置く。リングは重ねないように置く。重ねなければならぬ場合はやむを得ないものとする。
- (8) 標的の上にリングが乗った場合は、そのままにしておく。
- (9) 交替交替に投げたリングが、セット終了後同等の距離の場合は、それぞれのチームに各1点を与える。標的に接しているリングには全て得点を与える。
- (10) ゲーム中、標的をコート外に弾き飛ばした場合は、そのセットは終了し、相手チームに2点又は相手チームの残っているリングの数のいずれが多い方を得点として与える。

- (11) 得点の計算は、両チームのリングを全て送球し終わった後、標的に最も近いリングのチームが相手チームの標的に一番近いものより近いもの全て得点となる。(1個につき1得点とする。)
- (12) 8点先取したチームを勝ちとし、ゲームを終了する。  
ただし、セットは6セットまでとし、8点に達していない場合は6セット終了時に総得点の多いチームを勝ちとする。同点の場合は、代表者によるジャンケンで勝敗を決定する。
- (13) 予選はリーグ戦、決勝戦は各クラスに分けて、リーグ戦とする。同率の場合は①得失点差 ②ジャンケンの順で勝敗を決定する。  
なお、参加チーム数により試合方法が変更されることがある。
- (14) コートは下記のとおり設計する。

